

第10号

Super Highway

JR東労組バス関東本部

発行日  
2015. 7. 17

スーパーハイウェイ

発行責任者：遠山真一郎  
編集責任者：荒井雄太  
東京都渋谷区代々木2-2-6  
JR新宿ビル13F  
Tel03-3375-5076 (NTT)

相次ぐバスの重大事故

# 東名阪道でダンプにバス衝突 茶畑に転落し25人重軽傷！！

関越道ツアーバス・北陸道高速バス事故での原因究明や再発防止の対策を、たしる議員を通じた国政での働きかけ、JRバス関東本部—本社間の団体交渉でも議論を積み重ねていた中、新たな重大事故が7月14日午前3時過ぎに発生しました。



7月14日午前3時15分ごろ、三重県四日市市堂ヶ山町の東名阪道下り線で、27人が乗った大型高速バスが大型ダンプカーに追突、2台ともガードレールを突き破って約2メートル下の茶畑に転落横転し、バス・ダンプカーの男性運転手と乗客らを含め計25人が重軽傷を負った。現場は片側2車線で、バスは走行車線の前方を走っていたダンプカーに追突した。

バスは、高速バス会社「ウィラーエクスプレス関東」の委託を受けた「ロウズ観光」（岡山県倉敷市）が運行。13日午後8時に東京ディズニーランド（千葉県浦安市）を出発し、岡山市を経て倉敷市に向かう途中だった。

ロウズ観光によると、バスには運転手2人が乗車しており、静岡県の掛川パーキングエリアで交代したという。事故発生時にバスを運転していた運転手は社歴7年目で、5月の健康診断では運行に問題ないと判断されていた。同社の板野英樹課長は「今月3日に休みをとって以来、11日連続勤務中だった。乗務員を募集しているが、不足している」と話した。

一方、国土交通省は立ち入り調査を行い、運転手の勤務状況や、出発前に健康状態などを確認するために行う点呼の記録簿などを確認し、安全運行のための体制に不備がなかったかを調査。また、バスやトラック、タクシーの重大事故を調べる同省の「事業用自動車事故調査委員会（酒井一博委員長）」も、原因調査と再発防止策検討のため調査を開始。調査員5人を事故現場などに派遣する。

## JRバス関東でも教訓化しなければならない！！

⇒管理の受委託は、委託先に安全の管理・意識が共有されているかが最大の課題  
安全性低下が必然的となっている管理の受委託制度を再検証しよう！

⇒連続勤務がまたもクローズアップされている  
一週間に最低1日休日付与の協約徹底！

⇒行路の検証は安全衛生委員会で産業医とも議論  
「法令には抵触していないから問題ない」ではなく  
労使で安全重視の議論をおこなうことが重要！

⇒「眠気を感じたら直ちに車両を止める」通達は理解できるが、実際は？  
バス業界の風土として確立するために、職場からのたたかいを強化しよう！